「新城小学校の鎌ん手踊り伝承活動の取組」

１　学校名

垂水市立新城小学校

２　学年・人数

１年生から６年生（計19人）

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

令和４年９月２日～29日　体育・創意・総合的な学習の時間
（本校体育館・校庭）

⑵　発表の日時・場所

令和４年10月２日（日）　新城小・校区合同運動会（本校校庭）
（令和４年度は，コロナ感染状況もあり，例年発表の場でもある六月灯と校区文化祭は開催されなかった。）

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

⑴　名称

鎌ん手踊り（かまんておどり）

⑵　由来

安永８年，桜島が大爆発した。その被害は甚大で，農作物は降灰のため収穫が皆無となり，農民全員が生活苦に悩まされた。当時，新城領主であった末川久備公は，貯蔵米を放出して領民に米を施した。その年の年貢は取り止められ，更に農民の士気を鼓舞するため民芸大会が開催された。民芸大会は，各集落ごとに民芸団を組織して行われたが，そのとき新城大浜集落が踊ったのが「鎌ん手踊り」であった。村人全員が参加して盛大に開かれ，以来，村の行事として，祝いごとや祭りの折に氏神に奉納されてきた。

⑶　構成等

揃いの衣裳に鉢巻，色とりどりのタスキに身を固め，凜々しい姿で踊る。カマ，ナタ（ナギナタ）４人１組で前と後ろに位置し，唄声に合わせて，威勢のいい掛け声とともに，カマとナタとをつばぜり合わせながら舞う。つばぜり合いの際，樫の棒が「カチン」と響く様が勇壮である。

５　保存会や地域との連携の具体

「鎌ん手踊り」は，新城地区公民館に所属する「ふるさと先生」が中心となり，指導を行っている。地域の住民が集う六月灯，運動会，校区文化祭で踊られ，季節の節目を彩り，地域が一つになる大切な伝承芸能であるという意識が高い。地域社会の一員として児童，保護者，教職員はこの行事に愛着をもって参画する。「ふるさと先生」は，幅広い人々が所属し，先輩から後輩へと伝承する形式をとっている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

先輩から後輩へと伝承する鎌ん手踊りでは，地域の文化財少年団会員等から子供たちへ称賛や励まし，アドバイスを行う。また，子供たちは，それぞれでタブレット端末に入れてある動画を見て，個人練習も進めた。本番当日，保護者は，踊り手である子供たちを激励しながら伝統を託すように着物の着付けを手伝っている。伝承のために，保護者が着付けの説明書も作成した。

児童数が減少しているため，入学したばかりの小学校１年生も鎌ん手踊りの大切な担い手である。「ふるさと先生」は，全ての子供たちに愛情をもって教えている。保存会は担い手も増やすために，ビデオを見て学習会も行っている。この鎌ん手踊りを通して地区を一つにするために，地域や保護者ができることを考え，伝統を守っている。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

ふるさと先生の指導による練習風景

新城小・校区合同運動会での披露

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【６年生児童】

・　６年間踊って学んだことを，今年は下級生にも教えることができた。運動会本番では，上手に踊れて嬉しかった。

・　人数は減っているが，できるだけ続けてほしい。

【教職員】

地域の方が細かい所作や心構えを教えてくださったり，草履･カマ･ナタを新しく揃えたりしてくださったりと，子供たちへの愛情と伝統継承への強い思いを感じた。

【保存会から】

伝統の灯が消えないように，地区を挙げて指導者を増やしていきたい。

【保護者】

上級生はたくましく，下級生は元気に踊る姿に，感動しました。